



A.E.U.G.

MSN-00100 HYAKU-SHIKI


A.E.U.G. ATTACK USE PROTOTYPE MOBILE SUIT



1/100 scale MASTER GRADE MSN-00100 HYAKU-SHIKI Ver.2.0



反地球連邦組織 (エウゴ)
攻撃型モビルスーツ
MSN-00100 百式 Ver.2.0
1/100スケール マスターグレードモデル

MSN-00100 HYAKU-SHIKI 



反地球連邦組織 (エウゴ)
攻撃型モビルスーツ
MSN-00100 百式 Ver.2.0
1/100スケール マスターグレードモデル

GUNDAM.INFO Search
www.gundam.info
バンダイホビーサイト www.bandai-hobby.net/
Any fees accrued by your access method and connection to the website are your own responsibility.
ホームページにアクセスする際の通信費等はお客様の責任となります。



地球連邦軍MS開発経緯

グリプス戦役におけるMS開発

U.C. (宇宙世紀) 0079年に勃発した“一年戦争”によって、地球圏の軍事状況は一変した。既存の兵器体系はその根底から覆され、あらゆるレベルの安全保障は、攻防いずれにおいてもMS抜きに考える事はできなくなってしまうのである。

M (ミノフスキー) 粒子の散布技術の確立によって、有視界戦闘に特化されたMSの軍事的な優位性は揺るぎないものとなった。一年戦争以降の軍事力とは、すなわち保有するMSの数や性能であった。兵站からしてMSの運用が前提とされた。加えて、公国軍残党が保有するMSは相当数に上る事が火を見るよりも明らかであり、地球連邦軍はそれに対処する必要性に迫られていた。MSの生産に関しては、ジオン公国最大の開発メーカーであったジオニック社を吸収合併したAE (アナハイム・エレクトロニクス) 社が連邦軍最大のMS供給元となり、新型機の開発などにもコミットする地位を確立していた。連邦系と公国系の技術融合そのものは、基本的にU.C.0083年の時点でおおよそ完了しており、“ガンダム開発計画”がその成果であったということがいえる。ところが、“デラズ紛争”の勃発と、その事後処理の過程で“ガンダム開発計画”にまつわる事象のほとんどが封印されてしまったため、公にはその関連技術を使用する事ができなくなってしまった。これを主導したのが、後に“ティターンズ”を設立する“ジャミトフ・ハイマン”であり、公国軍残党への実効的な対処を名目として、戦時に準ずる予算規模で独自にMSを開発、運用する権限を手に入れた。ジム・クウエルの後継機、さらにはティターンズのフラッグシップMSとして開発されたRX-178 ガンダムMk-IIは、連邦系の技術のみで開発することが命題のひとつとされ、“ムーバブル・フレーム”の採用のほか、封印されたはずの“デラズ紛争”期の装備なども試験的に採用されていた。ジャミトフは“地球至上主義”を掲げ、ジオンに代表される宇宙移民者の排斥や弾圧を公言しており、デラズ紛争は格好の口実となっていたのだ。その動向に危機感を抱いていた連邦軍の穏健派やジオン系の政財界は、ティターンズがコロニー住民を虐殺した“30パンチ事件”を契機として反地球連邦政府組織“エウゴ”を結成する。そして、対抗措置としてAEと共同で独自のMS開発を始めた。ティターンズから3機のMk-IIを強奪したエウゴとAEは、“デラズ紛争”以来、実質的に断絶していた“純連邦系技術”を手に入れ、その画期的なコンセプトを貪欲に取り込み、リック・ディアスなどに採用していた独自技術の“ブロックビルドアップ”と組み合わせる事で、停滞していた“Zプロジェクト”を加速させた。特に“ムーバブル・フレーム”の入手は画期的であった。このフレームの出現によって、MSは抜本的な変革期を迎えたと言っても過言ではない。この時期以降に開発された機体が“第三世代MS”と呼ばれるのはそのためである。ティターンズにおいては既に旧式扱いされていたMk-IIは、エウゴによってそのポテンシャルを開花させたと言っても過言ではない。百式もその恩恵に与った機体のひとつである。



『Zプロジェクト』

“Zプロジェクト”とは、エウゴとAEによって推進された高性能な次世代MSの開発を企図したプロジェクトである。リック・ディアスの完成に前後して実施され、百式もこのプロジェクトによって開発された。

“Zプロジェクト”は、エウゴの戦略に応じた機体を開発する目的で推進されたプロジェクトであり、その概要は「無重量空間から重力下まで投入可能な汎用性の高いTMS (Transformable Mobile Suit=可変MS) を開発する」というものであった。なぜなら、当時のエウゴの最大の攻撃目標が連邦軍のジャブロー基地だったからだ。変形する事で機体特性を根本的に変更することが可能なTMSは、グリプス戦役当時には各陣営が開発、運用しており、単純に言えばMSが「自機の戦闘能力を単独で最前線まで空輸できる」だけでも画期的な事だった。ましてやティターンズは、自由落下状態でも高機動戦闘が可能なNRX-044 アッシマーなどをすでに実戦配備していた。エウゴにしても、母艦となる戦闘艦艇の調達すら困難な状況にあって、必要に応じて性格の異なる運用が可能なTMSの開発は必須の案件であった。このプロジェクトによって完成した“MSZ-006 ゼータガンダム”は、標準兵装のまま宇宙から大気圏に突入し、降下中も戦闘能力を失うことなく、重力下では即座に作戦行動に移行できるという画期的な機体であった。ただし、Zプロジェクトによって開発された機体はゼータガンダムだけではなく、生み出された機体の性格は多岐にわたっていたことも明らかになっている。AEの事情としても“ガンダム開発計画”以来の規模で各開発部門が動員されていたように、TMSのみならず、MSそのものの新たな可能性を模索する設計案も散見される。実際、MSZ-006X1~3 プロトタイプゼータガンダムやMSA-005 メタスなどを始めとする複数の設計案が持ち寄られていた。その一方で、“Mk-II強奪”によってティターンズとの直接的な軍事衝突の時期が想定よりも早まってしまったため、開発途上の機体であっても前線に投入する必要が生じた。すなわち、Mk-IIの入手は奇貨としつつも、“ガンダム”の名を冠するに相応しいエウゴ

独自のフラッグシップ機が必要となったのである。δ (デルタ) ガンダムは、TMSとしては未完成であったものの、高速戦闘用MSとしての要求性能は十二分に満たしていた。仕様変更をしてまでロールアウトが前倒しされたのは、そういった側面もあったと思われる。また、公然の秘密であったクワトロ・バジナ=シャア・アズナブルに相応しい機体を早急に調達するためとする説もまことしやかに囁かれている。これには、彼を後継者と目するエウゴの指導者“ブレックス・フォーラ”の意向も強く反映されていたようだ。



百式 開発経緯

/MG.Ver.2.0による開発系譜からの新解釈

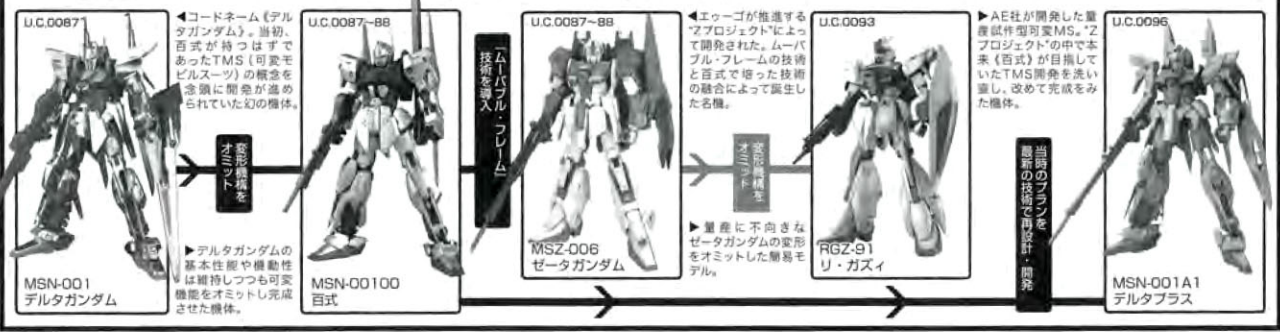
Background of the development

MSN-00100 百式は当初、“Zプロジェクト”のフラッグシップとなるTMS “δガンダム”として開発されていた。しかし、変形機構に問題が発覚したため、急速に変形機構の機体として再設計されることとなった。

MSN-00100 百式は、エウゴとAEが、RMS-099 リック・ディアスに続く更なる高性能を開発すべく推進していた“Zプロジェクト”に基づいて生み出されたMSである。当初は、AEによる3機目のガンダムであるγ (ガンマ) ガンダム=リック・ディアスに続く4機目の機体、“δガンダム”として開発されていたが、“大気圏突入能力を持つTMS”という要求性能を満たす事ができなかったため、非変形の機体として配備されることとなった。背部のフレキシブル・バインダーや、脚部の独立式デュアルフロートアーマー構造などにその名残が見て取れる。実際、MSとしての稼働についてなら言葉がなかったため、脚部の変形機構は、ほぼそのまま残されている。逆に言えば、将来的にTMSとしての再設計を見越した稼働試験を企図していた節さえある。ちなみに、可変機としての完成が放棄された理由は、フレームの強度不足などのほかにも、所期の要求性能がZガンダムよりも過酷であった事が要因のひとつとされている。δガンダムのWR (ウェーブ・ライダー) 形態には、旧世紀の航空機カテゴリーでいうところの“マルチロールファイター”と同等かそれ以上のスペックが求められていた。フレキシブル・バインダーに、飛行形態時にはVG翼として機能するであろう構造が残されていることも傍証のひとつだ。この装備は空力的にも優秀であったため、重力下における空中戦などにおいても有効に機能したといわれている。一方、ゼータガンダムは、航空機として見れば極めて限定的な能力しか付与されていない。基本的に大気圏突入の達成が優先されており、突入時の衝撃波と高熱に対応したフライングアーマーを標準装備としているが、この装備は後年開発されたゼータプラスや新生δガンダムなどと比較しても相当なボリュームとなっている。背部スタビレーターとも違って、

AMBAC用のデバイスとして十分に機能している様子もない。どう晶目に見ても、MS形態時にはデッドウェイトである。つまりは、これが当時の技術で達成可能なフライングアーマーの“薄さ”だったのだ。無論、シールド兼スラストユニットとしての機能や、プロペラントの積載などに不可欠な装備であることは間違いないが、まずはフライングアーマーの実証試験自体、ジャブロー降下作戦時に漸く実験機が間に合ったというレベルであった。高性能なMSが一機でも多く必要なエウゴの台所事情からしても、δガンダムを当初の構想通りに完成させる事は時期的に非常にリスクであり、百式へと改装した判断は正しかったということが出来る。さらにいえば、百式をテストベッドとして、メインモニターにデュアルアイと並行してIDE (Image Directive Encode=画像管理型符号化) システムを採用したり、メガ・バズカ・ランチャーの稼働実験に運用したりできた事が、間接的にエウゴの技術力、あるいは戦力強化に繋がった事は事実であるし、直接的には“赤い彗星”が騎乗することで、ピーキーな設定で高度な高速戦闘を繰り返した実働データの収集ができたことが“百式”の存在意義であったといえる。Mk-IIは悪い機体ではなかったが、やはり鹵獲兵器である事は否めない。エウゴとしてはともかく、AEとしては、百式がガンダムタイプのフラッグシップMSの魁であったことは間違いない。そのことは、後に量産型や陸戦型などのバリエーション機が少数ながら開発されたことからも伺うことができる。かくして“百式”は、ガンダム系の機体としてその系譜に深く刻まれたのみならず、数年の時を経て、ゼータガンダムなどの実働データを取り込む事で、本来のδガンダムとしての姿を取り戻すこととなる。

U.C.0087~0096 時代を彩った『百式』の血統 ~「技術の壁」という呪縛から解き放たれるまで~

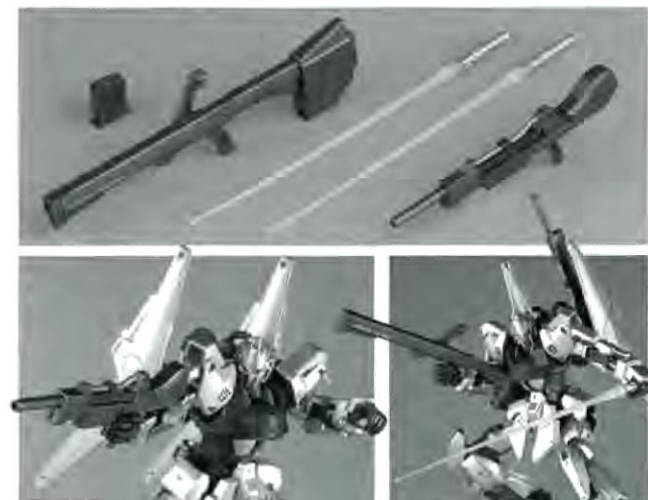


百式 スペックと武装

Spec and armaments

百式は仕様変更を受けた事もあってアビオニクスが複雑であり、基本的にはワンオフの機体であった。その反面、各デバイスは信頼性が高く、内部へのアクセスも容易であったため、新装備のテストベッドとして運用された。百式のデフォルトの武装は標準的なものとなっている。ビーム・サーベルやクレイ・バズカは基本的にリック・ディアスと同等品であり、専用とされるビーム・ライフルも、一年戦争時に一部のジム系の機体が装備していたものの改良品である。加えて、特殊な塗装と高速機動によって被弾率を低下させることをコンセプトのひとつとしていたため、基本的にはシールドも装備していない。この特徴的な塗装は、“百式”の開発を主導したM・ナガノ博士による「百年保つMS」となって欲しいという願いのためであるとされ、それを体現するかのようになり、全身が金色でコーティングされている。これは、耐ビーム機能を持つ合成樹脂のエマルジョンの一種で、一般的には敬遠されていたカラーであったものを、博士の強い要望と搭乗者クワトロの理解によって採用されたものである。基本的に塗布型だが、処理の過程では金属光沢をもたらし重合素材の薄膜ラミネート層などもあり、一部の資料にある“超強化プラスチック装甲”とする定義も誤りではない。ただし、オリジナルのレシピでコーティングされていたのはロールアウト直後だけで、その後このコーティングを完全に再現することは不可能であったらしい。実際の耐弾性は当時のレベルを大幅に超えるものではなかったようだが、前線での視認性は図抜けており、当時すでにエウゴ内部では公然の秘密であったクワトロ・バジナ=シャア・アズナブルの駆る機体として、これほど相応しい機体もなかったといえるだろう。彼は、エウゴ、ティターンズ、アクシズによる三つ巴の混戦となったコロニーレーザー攻防戦のさなか、キューベレイ、ジ・Oなどとの熾烈な戦闘を繰り返した後、行方不明となっている。機体は大きな損傷を被っていたが、後にネオ・ジオンとの抗争

激化に伴って修復を受け、再びアーガンに配備され、Mk-II、Z(ゼータ)、ZZ(ダブルゼータ)とともに“ガンダムチーム”を編成。第一次ネオ・ジオン戦争終結まで運用されたのであった。



△ 注意

お買い上げのお客様へ 必ずお読みください。

- 本商品の対象年齢は15才以上です。対象年齢未満のお子様には絶対に与えないでください。
- 小さな部品がありますので、小さなお子様が悪く飲み込まないように注意してください。窒息などの危険があります。
- ビニール袋を頭からかぶったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- 尖った部分や鋭い部分がありますので、取り扱いや保管場所に注意してください。思わぬケガをする恐れがあります。

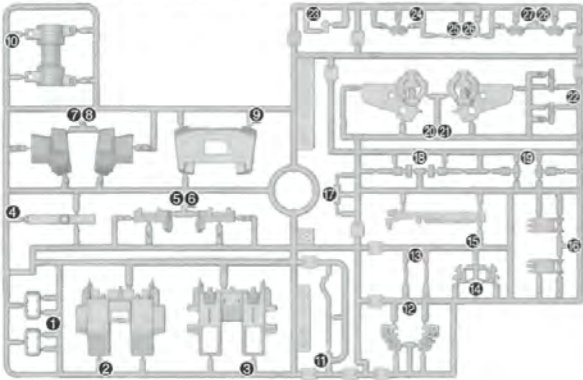
〈組み立てる時の注意〉

- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。
- 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 塗装には、より安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。
- メッキ部分の組み立てのキツイ部分は、メッキ部分をはがして組み立ててください。
- 本商品にはメッキ処理を施しています。消しゴム等で強く擦ったり、溶剤を付けて拭いたりするとメッキ加工が剥がれてしまう恐れがあります。スミ入れや塗装等の加工には十分ご注意ください。

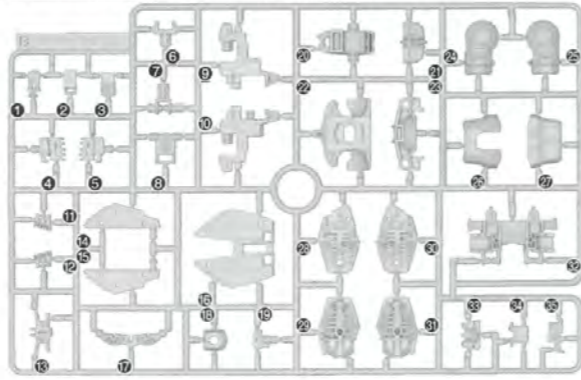
パーツリスト

(×印は使用しないパーツです。)

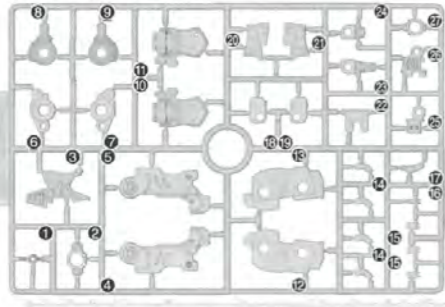
Aパーツ(イロプラ) (スチロール樹脂: PS)



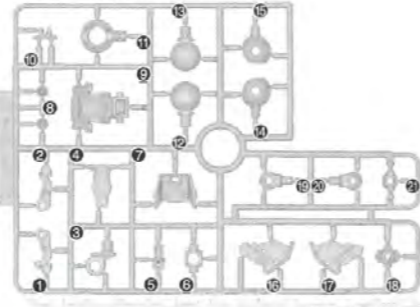
Bパーツ(グレー) (スチロール樹脂: PS)



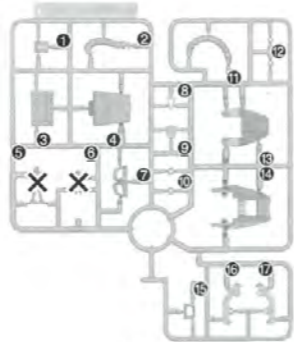
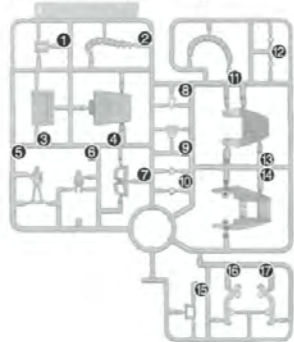
Cパーツ(グレー) (×2)
(スチロール樹脂: PS)



Dパーツ(グレー) (×2)
(スチロール樹脂: PS)



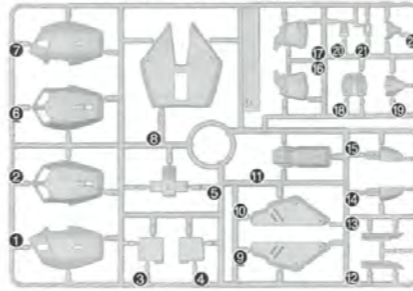
Eパーツ(レッド) (×2)
(スチロール樹脂: PS)



※E10は予備です。

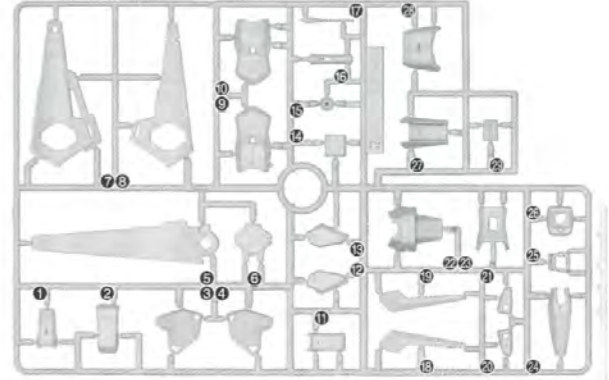
Fパーツ(ゴールドメッキ)

アンダーゲート有り
(スチロール樹脂: PS)



Gパーツ(ゴールドメッキ) (×2)

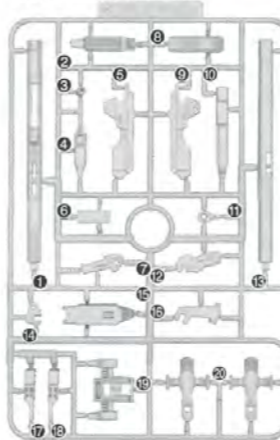
アンダーゲート有り
(スチロール樹脂: PS)



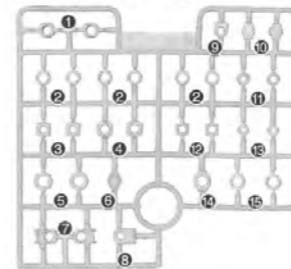
※G10は予備です。

Hパーツ(ガンメタリック)

(スチロール樹脂: PS)



PC-211(グレー)
(ポリエチレン: PE)



SB1パーツ(クリアイエロー)
(スチロール樹脂: PS)



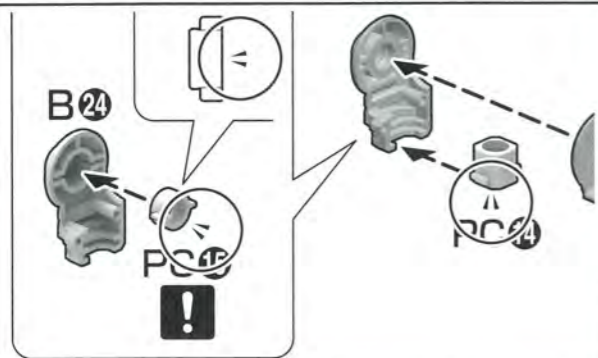
※クリアパーツの中には、製造工程上気泡が入っているものがありますがご了承ください。

カラーシール……………1枚
マーキングシール……………1枚
ガンダムデカール……………1枚

組み立て前の基本説明

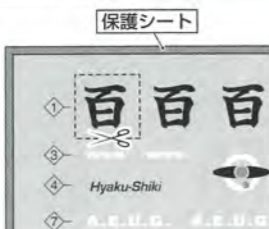
部品の向きに注意してください

※組み立て図中にVのついている部品は、形状や向きに注意して組み立ててください。



ガンダムデカールの貼りかた

①ガンダムデカールは、転写するマークを保護シートと一緒にマークより大きめに切り出してください。

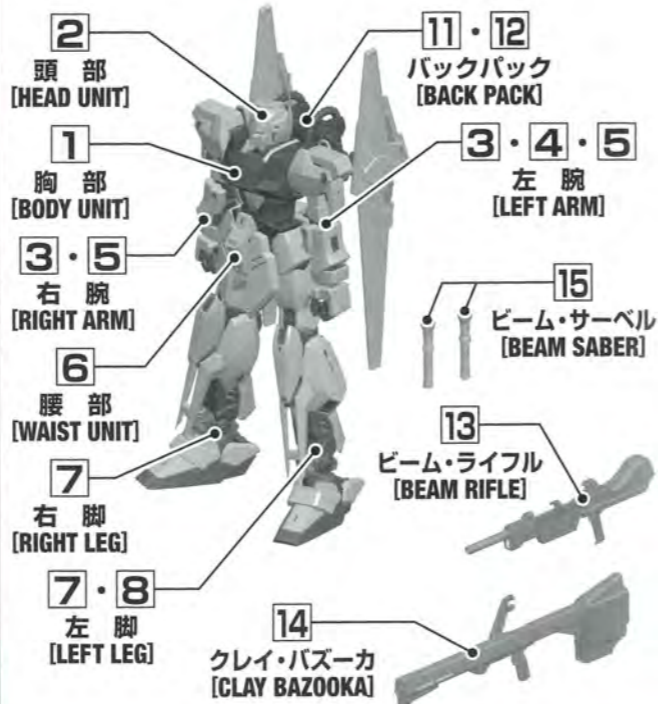


②保護シートをはがし、貼る位置を決めてから、ずれないようにセロハンテープ等で固定し、マークの上からボールペン等の先端の丸い物でこすりつけて定着させます。

③シートを静かにはがし、デカールが定着していない部分が残った場合はシートを元に戻し、その部分を再度こすりつけます。

※デカールを貼り間違えた場合は、セロハンテープ等ではがしてください。

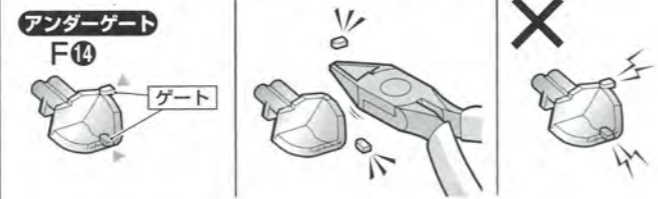
説明書をよく読んで完成させましょう



アンダーゲートの切り取りかた

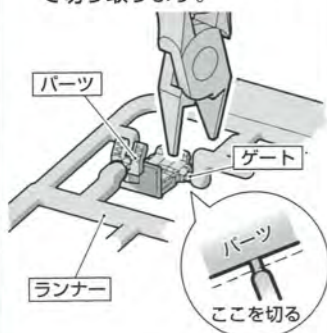
アンダーゲート マークの付いた部品は、下の図のようにキレイに切り取ります。

※説明書でアンダーゲートと表記されているパーツには裏側等にゲートがあります。印が付いている部分は忘れないようにきれいに切り取ってください。

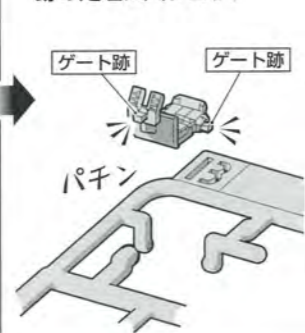


パーツの切り取りかた

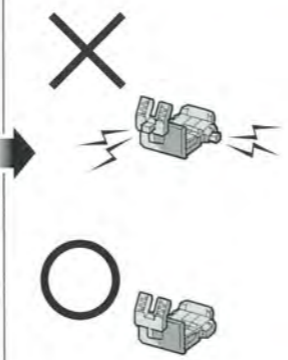
①まず、パーツから少し離れた位置にニッパーの刃を入れて切り取ります。



②パーツを切り離して持ちやすくしたところでゲート跡の処理に入ります。

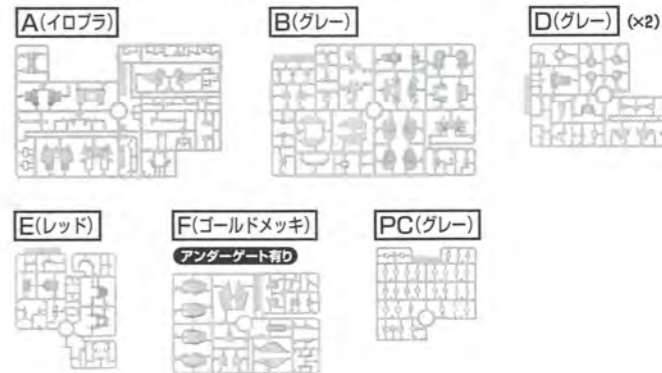


③ニッパーの刃をパーツに密着させてゲートを切り取れば、きれいに仕上がります。



1 BODY UNIT

・組立1で使用するパーツ



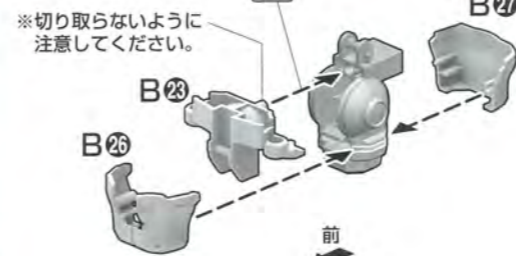
1 (胸部の組立)

<1> BODY UNIT



1

<2>



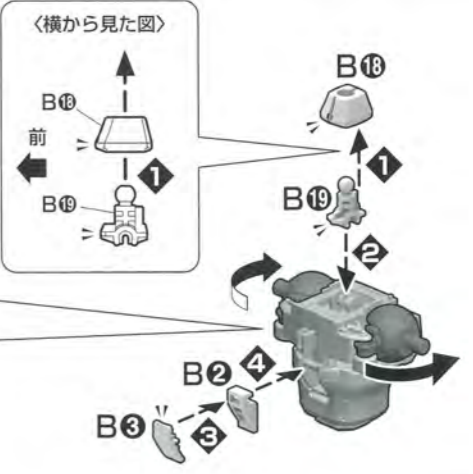
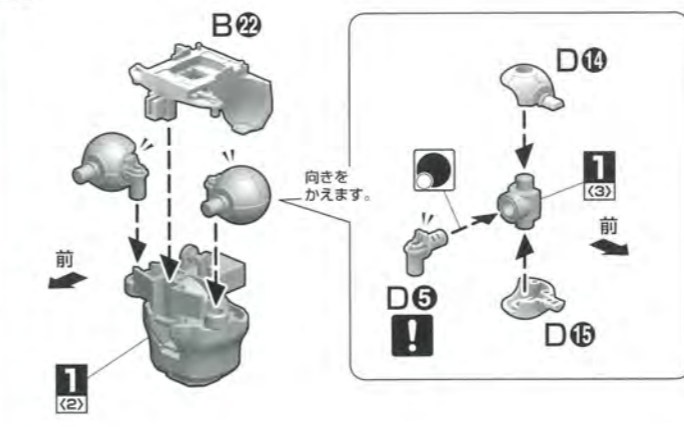
1

<3>



1

<5>



1 (6)

アンダーゲート F13
アンダーゲート F12
アンダーゲート F14
アンダーゲート F15
アンダーゲート B21
アンダーゲート A9
アンダーゲート A8
アンダーゲート A7

1 (6) 前

3 4 5 ARM UNIT

・組立3・4・5で使用するパーツ

A(イロプラ)	B(グレー)	C(グレー) (×2)	D(グレー) (×2)
E(レッド) (×2)	F(ゴールドメッキ) アンダーゲート有り	G(ゴールドメッキ) (×2) アンダーゲート有り	PC(グレー)

2 HEAD UNIT

・組立2で使用するパーツ

A(イロプラ)	B(グレー)	F(ゴールドメッキ) アンダーゲート有り	G(ゴールドメッキ)	PC(グレー)
---------	--------	----------------------	------------	---------

・カラーシール

2 (頭部の組立) HEAD UNIT

(1) 2

アンダーゲート F16
アンダーゲート F22
アンダーゲート F17

2 (2)

アンダーゲート F18
アンダーゲート F20
アンダーゲート B35
アンダーゲート A25
アンダーゲート F21
アンダーゲート F19
アンダーゲート G17

※シールは先に貼ります。
※きれいに切り取ります。

※シールは先に貼ります。
※折らないように注意してください。

3 (腕部の組立) ARM UNIT

(1) 2

※奥までしっかりと、はめ込みます。
※切り取らないように注意してください。

アンダーゲート G25
アンダーゲート G20
アンダーゲート G23
アンダーゲート E12
アンダーゲート G21

3 (2)

※ミゾに合わせてはめ込みます。

3 (右腕の組立) RIGHT ARM

(3) 3

※横から見た図

3 (4)

3 (2) 前

G26

4

C15

3 (3)

C16

4 (左腕の組立) LEFT ARM

B6

C17

C16

C14

B12

A17

F4 アンダーゲート

G26

C15

C14

向きをかえます。

前

3 (2)

3 (3)

〈横から見た図〉

5 (1) (肩部の組立) SHOULDER ARMOR

D4

G1 アンダーゲート

D16

C22

D17

E15

E16

E17

G2

G3

G4 アンダーゲート

アンダーゲート

5 (2) (上半身の完成) UPPER BODY

2 で作った頭部

5 で作った肩部

5 で作った (1) 肩部

1 で作った胸部

3 で作った右腕

4 で作った左腕

パチン

6 (3)

A6

B7

B17

PC9

B8

〈横から見た図〉

※奥までしっかりと、はめ込みます。

前

6 (2)

6 (4)

B16

F9 アンダーゲート

F11 アンダーゲート

B14

アンダーゲート F10

向きをかえます。

前

6 (2)

6 (5)

B16

F8 アンダーゲート

B18

F6 アンダーゲート

前

6 WAIST UNIT

・組立6で使用するパーツ

A(イロプラ)	B(グレー)	D(グレー) (x2)	F(ゴールドメッキ) アンダーゲート有り	PC(グレー)
---------	--------	-------------	----------------------	---------

6 (1) (腰部の組立) WAIST UNIT

PC2

D3

6 (2)

B9

B10

7 8 LEG UNIT

・組立7・8・9で使用するパーツ

A(イロプラ)	B(グレー)	C(グレー) (x2)	D(グレー) (x2)
E(レッド) (x2)	F(ゴールドメッキ) アンダーゲート有り	G(ゴールドメッキ) (x2) アンダーゲート有り	PC(グレー)

MS Tracks in U.C.0087 (グリプスの軌跡)

Storm over Kilimanjaro (キリマンジャロの嵐)

ティターンズのキリマンジャロ基地を攻略するカラバの作戦に呼応し、陽動のため軌道上から基地を攻撃するアーガマ。ところが、ヤザン隊の奇襲によってダメージを受けた百式が軌道を外れてしまい、やむなくZと共に地表に降下することとなった。地上に降り立ったカミーユとクワトロは、戦闘を避けて基地内部に潜入し偵察を始める。一方、ディジェを駆るアムロは、激戦の最中であっても降下したはずのZ、百式を気遣っていた。と、その眼前に巨大な漆黒の機体が出現する。「あれは、……サイコ・ガンダム!!」猛烈な拡散メガ粒子砲に味方機が次々と撃墜され、アムロも回避行動を余儀無くされる。その時、Zと百式が身を潜めていた湖底から身を翻し、ディジェの援護に駆けつけた。「あれは、カミーユとシャア!!」サイコの前面に立ちふさがるZ。しかしカミーユの声はフォウには届かず、ビームがZを掠める。「下がれ、カミーユ!!」シャアは、ウェイブ・ライダー形態で喚叫しようとするZを百式の体当たりでサイコの射程から突き飛ばす。「離れるんだ! サイコ・ガンダムは危険だ!!!」「アムロ!!!」「退くぞ?」アムロのディジェも牽制のためサイコに一撃離脱の攻撃を浴びせるが……!!!



Riders in the Skies (宇宙を駆ける)

グリプス2を掌握したエウゴは、コロニーレーザーの照準をティターンズ艦隊に定めた。それを受け、ブライトはカミーユにグリプス2の防衛を命じる。しかし、ティターンズ艦隊を温存したいシロッコは、コロニーレーザーの照射を阻止すべく、ジ・Oを駆ってグリプス2内部に侵入しコロニーレーザーの励起装置を破壊し始めた。クワトロ大尉は百式でシロッコを追う。「シロッコの奴……ん?!」「レーザー砲を潰そうというのかい?!」追いすがるハマーンのキュベレイも百式を追い詰める。「これ以上破壊されると……」焦るシャアの前にシロッコが立ち足る。「死にきたか?!」「めうっ?!」装置の影からジ・Oが狙い撃ち、それを避ける百式にキュベレイが斬り掛かる。ビーム・ライフルをかまえた腕ごと持っていかれた百式は、そのまま横っ飛びにハマーンの切っ先を逃れ、一瞬遅れて放たれたビームに粉れようとして発振器に突っ込んでしまった。「ここまでだな」「シャアッ!!」「そうかい?」ジ・Oとキュベレイに囲まれながら、なおも逃れるシャア。ハマーンは未だ自軍に引き込もうと探りを入れるが、シロッコはもとより撃破を狙う。「もう貴様は消えてい!!」百式の片足をもぎ取られてもシャアは屈しない。「ええい!! まだ終わらんよ!!!」絶対の窮地に追い込まれてしまったシャア。果たして!!!



※画像はイメージです。

PAINTING (塗装)

MSN-00100 百式 Ver.2.0

※よりリアルに仕上げたい方は、下の基本色をご覧ください。
※塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

胸部等 ブルー部の塗装色 インディブルー (55%) +パール (40%) +ブラック (5%)	フレキシブル・バンダー基部等 シルバー部の塗装色 シルバー (100%)	ビーム・ライフル動力パイプの塗装色 ゴールド (100%) の上から クリアイエロー (100%)
腹部等 グレー部の塗装色 マホガニー (45%) +ホワイト (25%) +ブラック (20%) +カーキ (10%)	武器等、メタリックグレー部の塗装色 黒鉄色 (100%) +シルバー (少量)	額、センサー等 グリーン部 クリアグリーン (60%) +クリア (40%)
足、動力パイプ等 レッド部の塗装色 レッド (50%) +あすき色 (50%) +ブラック (少量)	※カラー配合は参考値であり、画像とカラーガイドの色は異なる場合があります。 ※ここに掲載している情報は2015年5月現在のものです。	

クワトロ・バジーナ

顔等の塗装色 薄茶色 (50%) +ホワイト (50%)	制服等 レッド部の塗装色 モンザレッド (100%)
髪等の塗装色 ホワイト (75%) +イエロー (15%) +薄茶色 (10%)	肩、ベルト等 ブラック部の塗装色 ブラック (100%) +ホワイト (少量)
ノーマルスーツ	
ノーマルスーツ等 ピンク部の塗装色 サーモンピンク (80%) +ホワイト (40%) +イエロー (少量)	
パイザー等 ライトブルー部の塗装色 みず色 (100%) +エメラルドグリーン (少量)	
ヘルメット類等 ブラウン部の塗装色 マホガニー (70%) +ホワイト (25%) +ブラック (5%)	
肩等 レッド部の塗装色 あすき色 (90%) +ホワイト (10%)	

ワンポイントステップ ~One point step~

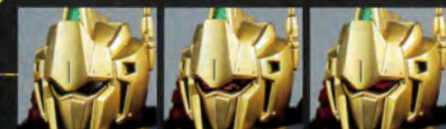
スミ入れしてみよう!
ガンダムマーカー/スミ入れ用(別売り)などを使用して、キットのスジ彫りを塗装することで、立体感、リアル感が増します。スミ入れするだけで見えるような仕上がりになります。

※本商品にはメッキ処理を施しています。消しゴム等で強く擦ったり、溶剤を付けて拭いたりするとメッキ加工が剥がれてしまう恐れがあります。スミ入れや塗装等の加工には十分ご注意ください。

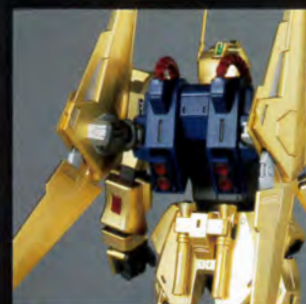


MSN-00100 HYAKU-SHIKI MECHANISM

「Z計画」から生み出された高性能試作MS。非変形機への仕様変更が行われたが、その機動性とポテンシャルの高さは、クワトロ・バジーナによって証明された。脚部構造などから可変機構の名残を窺い知ることができる。



▲百式のヘッドユニット構成は、ガンダム系の意匠を踏襲しつつアップデートされており、バルカン砲や各種センサーベースの選定など、基本的なシルエットは無論のこと、ゼータガンダムの設計そのものに多大な影響を与えている。



▲百式のバックパックは、リック・ディアスの動力デバイスとバンダー基部を圧縮した構造に一般的なスラスターユニットを組み込んだもので、むしろフレキシブル・バンダーの流用自体を主目的として構成されている。



▲百式のアームユニットは、リック・ディアスのマニピュレーターや装甲の構成をムーバブル・フレームに移植する際のマッチングテストを兼ねた構造を持っていた。その結果は非常に良好で、稼働も安定していた。



MODEL NUMBER : MSN-00100
Height : 20.6m
Weight : 31.5t
Armor materials : Gundalium alloy



▲百式のボディユニットは6ガンダムとして建造されていたが、モジュールごとリック・ディアスのフレームをコクピット内蔵型に改装したものと換装された。その際、ジェネレーターや最終装甲の構成なども変更されている。



▲百式のレッグユニットは、ムーバブル・フレームを導入しながら、ほぼ6ガンダムの設計案通りの構造を持っており、最終装甲の形状の再検証と、TMSでは不可避の「可動部の露出」問題への対応を模索するのにも最適であった。

※上記は劇中の設定です。
※組立図通りに組立てた場合は、この写真のようになります。

Weapons MSN-00100 HYAKU-SHIKI Armaments



▲クレイ・バズーカ、ビーム・ライフルはバックパックにマウントが可能。
Clay Bazooka

▲グリプスをセットしたサーベルラックは上下にスライドが可能。
Beam Rifle
Beam Saber

Check it!

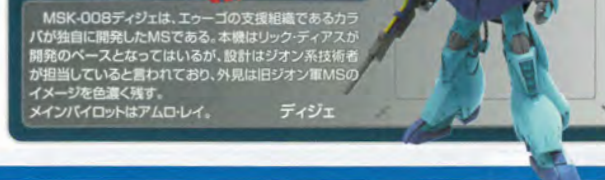
百式と共にグリプス戦役を駆け抜けたMSたち

MSZ-006ゼータガンダムは、エウゴが推進する「Zプロジェクト」によって開発された攻撃用可変MSである。エウゴの持つMS技術とティターンズから強奪したRX-178 ガンダムMk-IIがもたらした「ムーバブル・フレーム」技術の融合によって誕生した。本機の完成に至る過程において百式の開発技術が多岐にわたる影響を与えたことは言うまでもない。メインパイロットはカミーユ・ビダン。



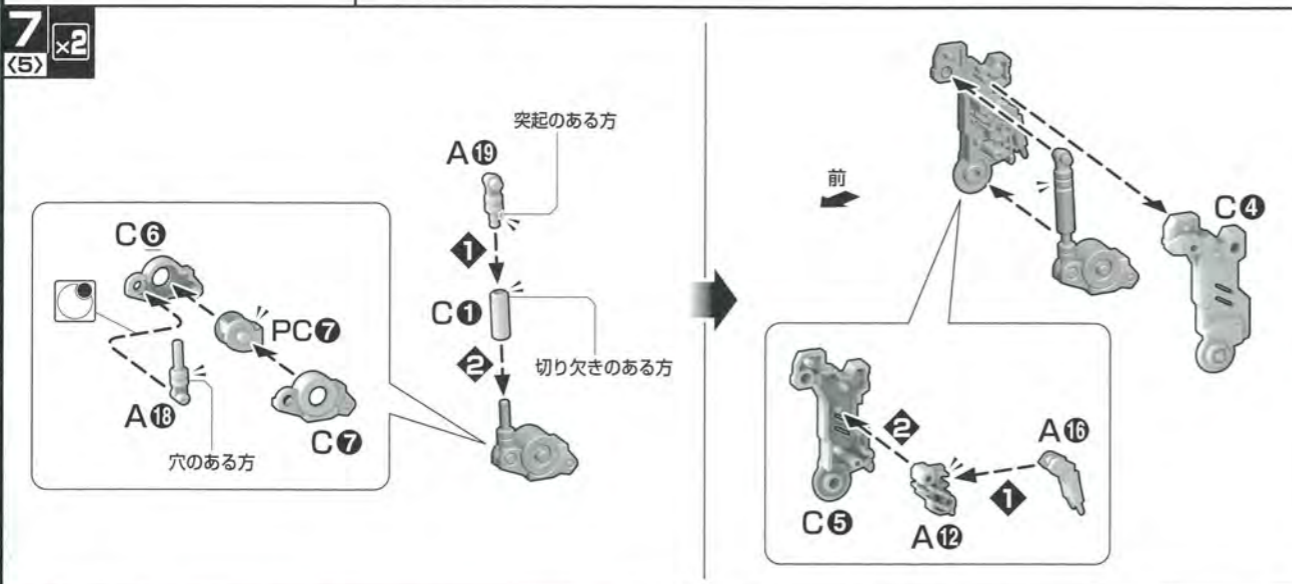
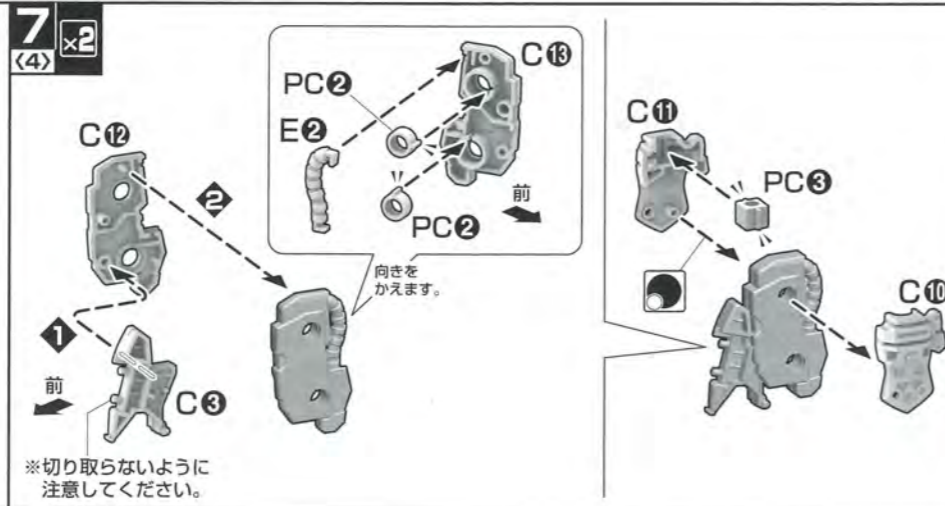
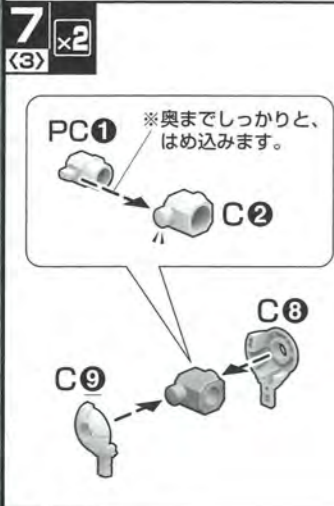
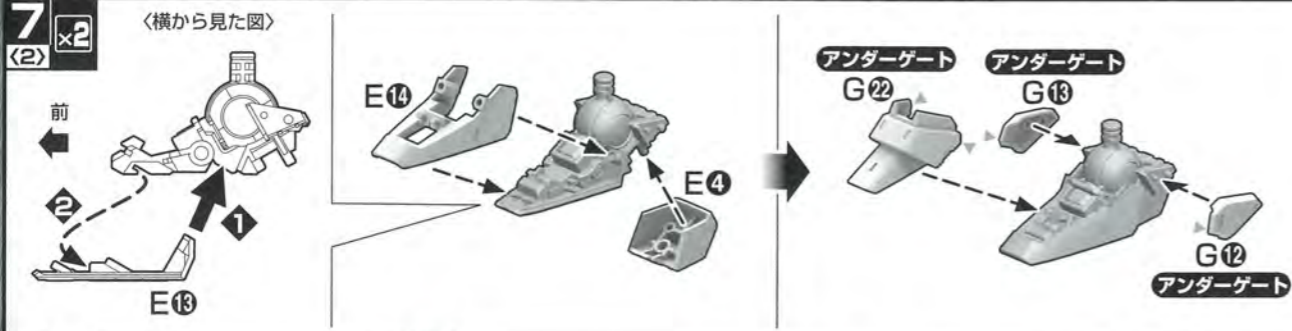
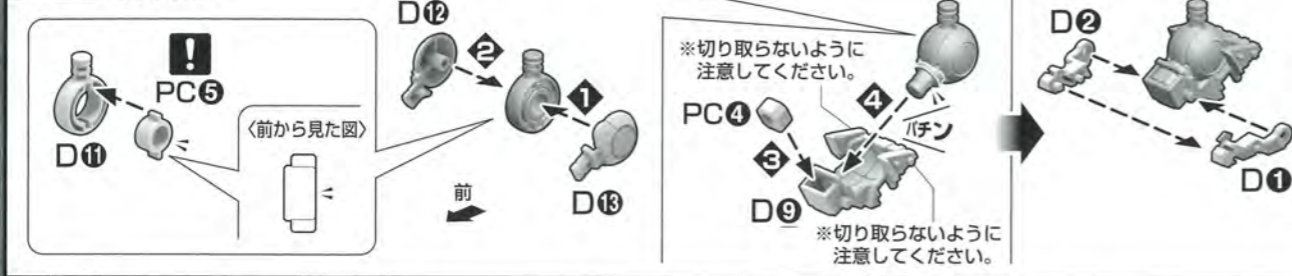
ゼータガンダム

RX-178 ガンダムMk-IIは、純正邦産技術によって開発されたMSである。3機開発された全てのMk-IIは、エウゴに強奪され「ムーバブル・フレーム」を始めとする画期的なコンセプトを取り込むことで、停滞していたZプロジェクトの進展を見ることとなった。メインパイロットはカミーユ・ビダン、エマ・シーン、ガンダムMk-II(エウゴ)

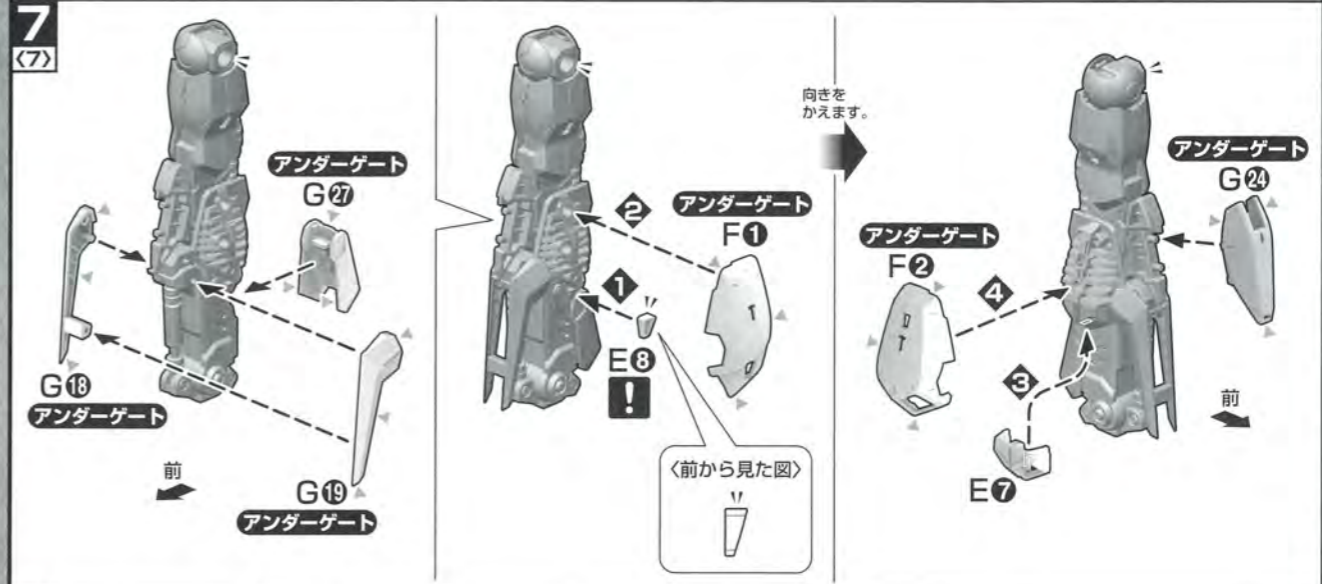
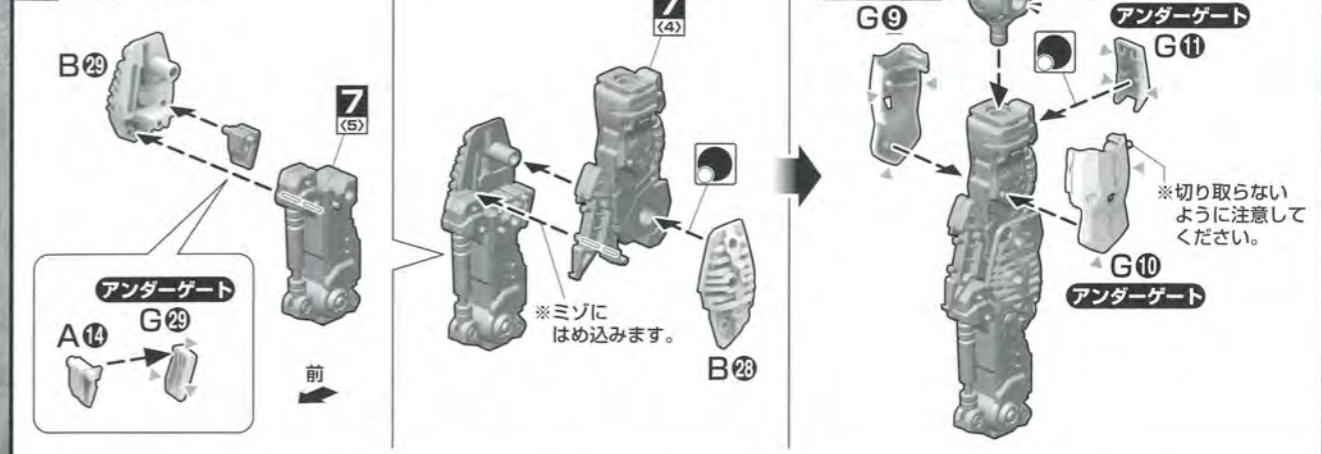


MSK-008ディジェは、エウゴの変換組織であるカラバが独自に開発したMSである。本機はリック・ディアスが開発のベースとなっており、設計はジオン系技術者が担当していると言われており、外見は旧ジオン軍MSのイメージを色濃く残す。メインパイロットはアムロ・レイ。

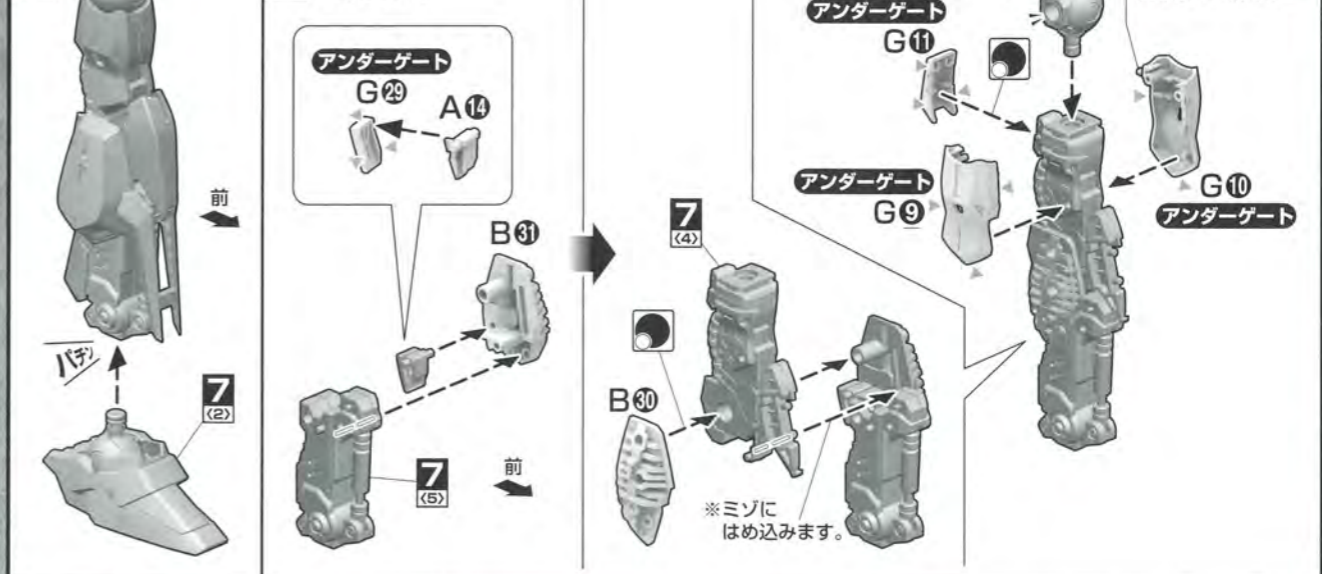
7 **7** **2** (脚部の組立)
LEG UNIT

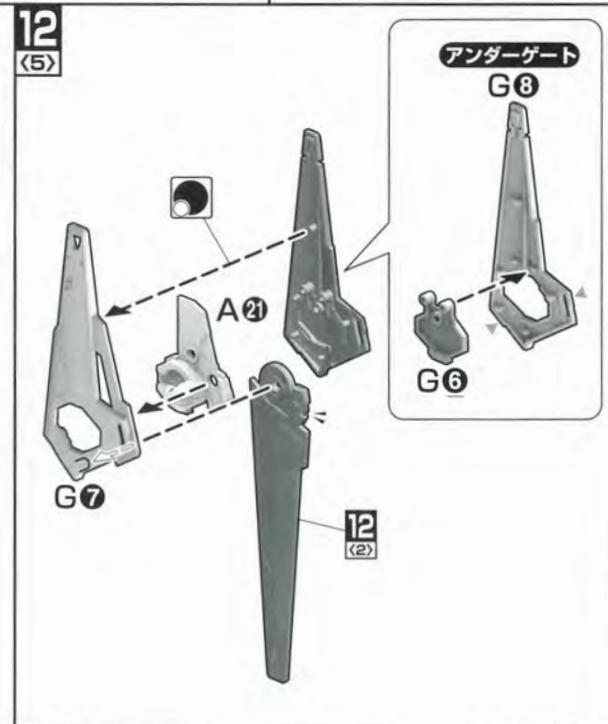
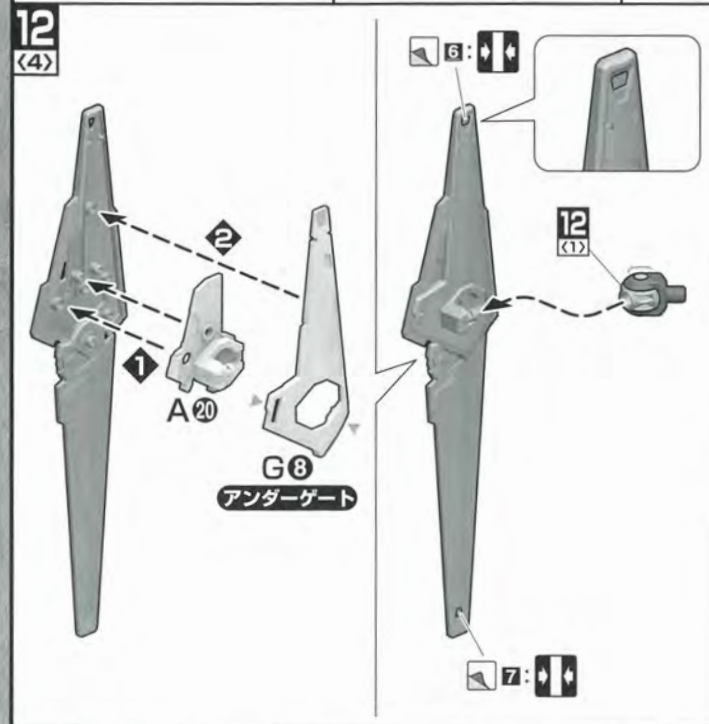
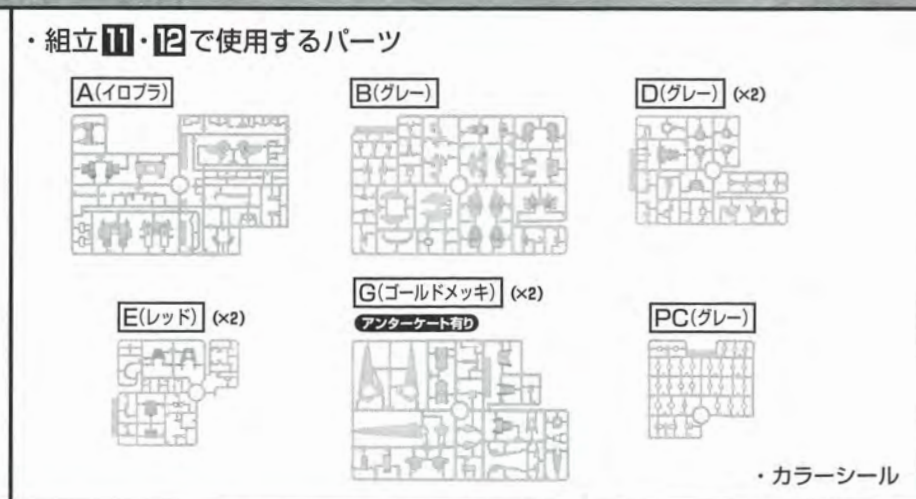
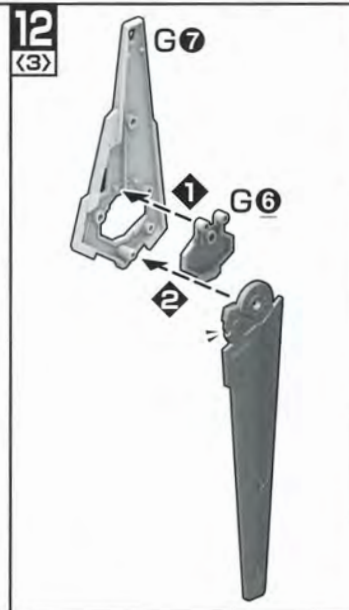
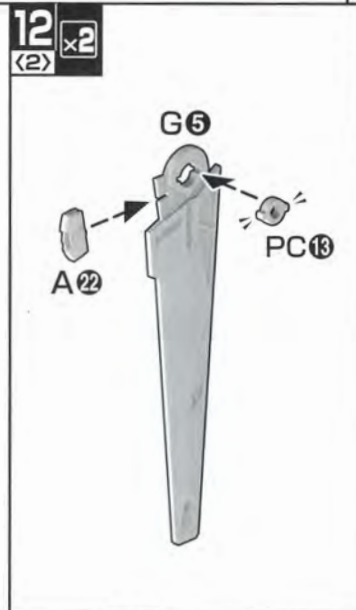
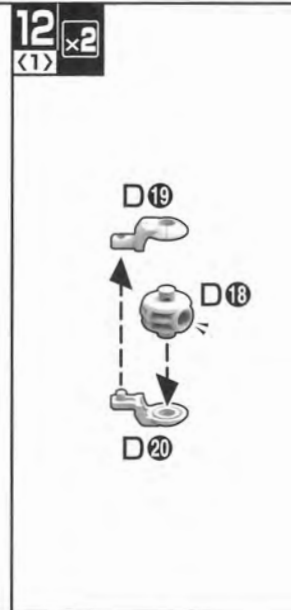
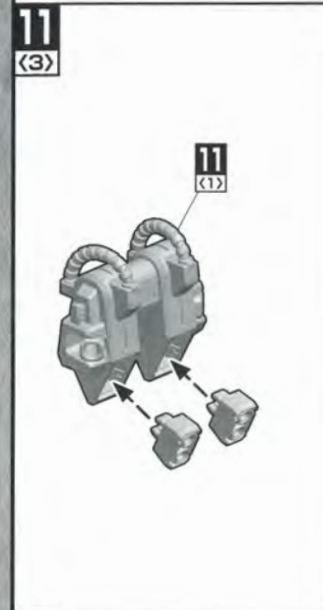
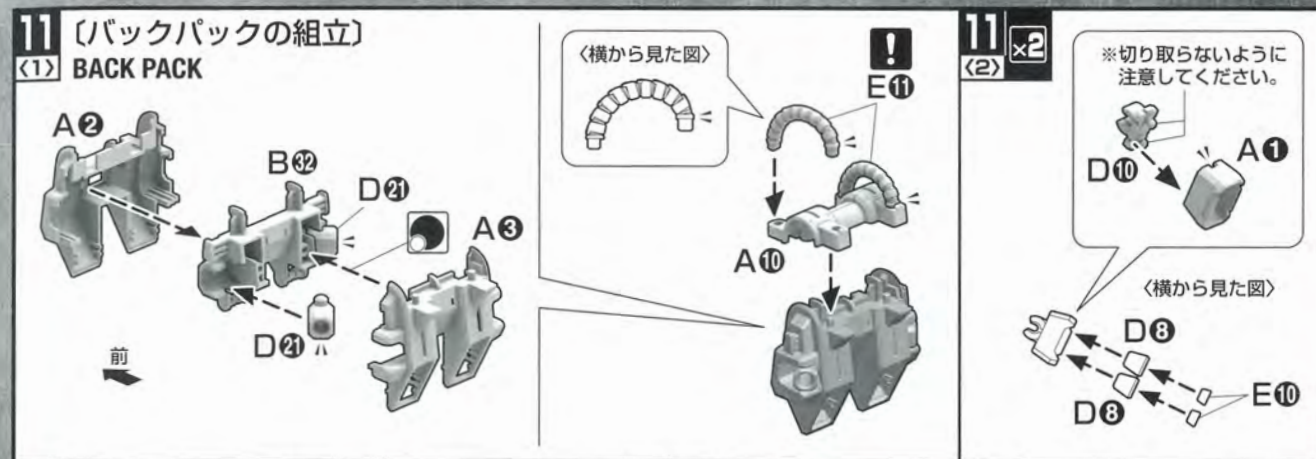
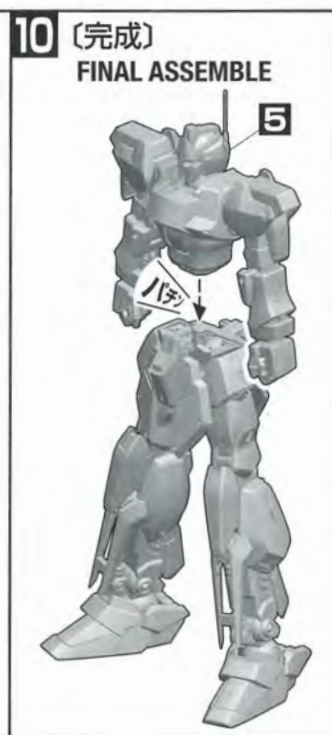
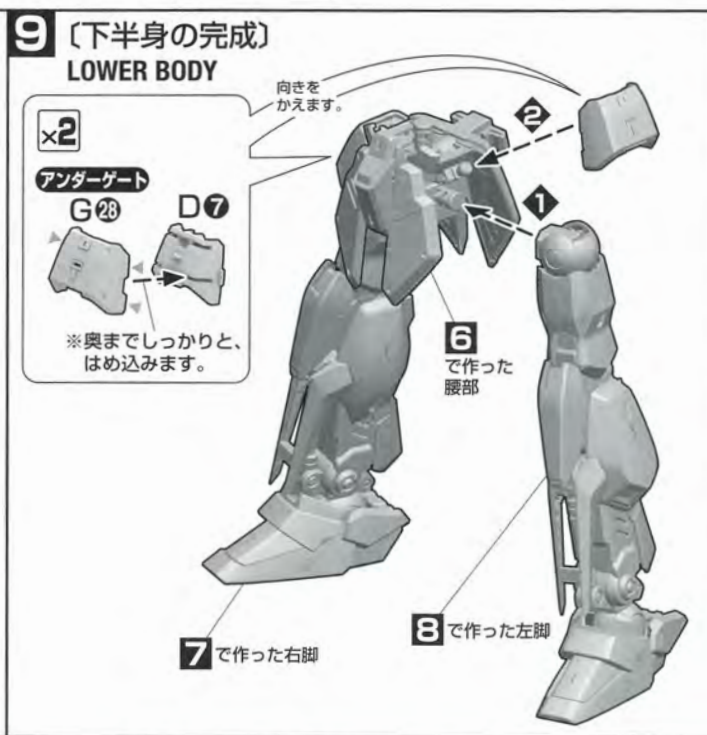
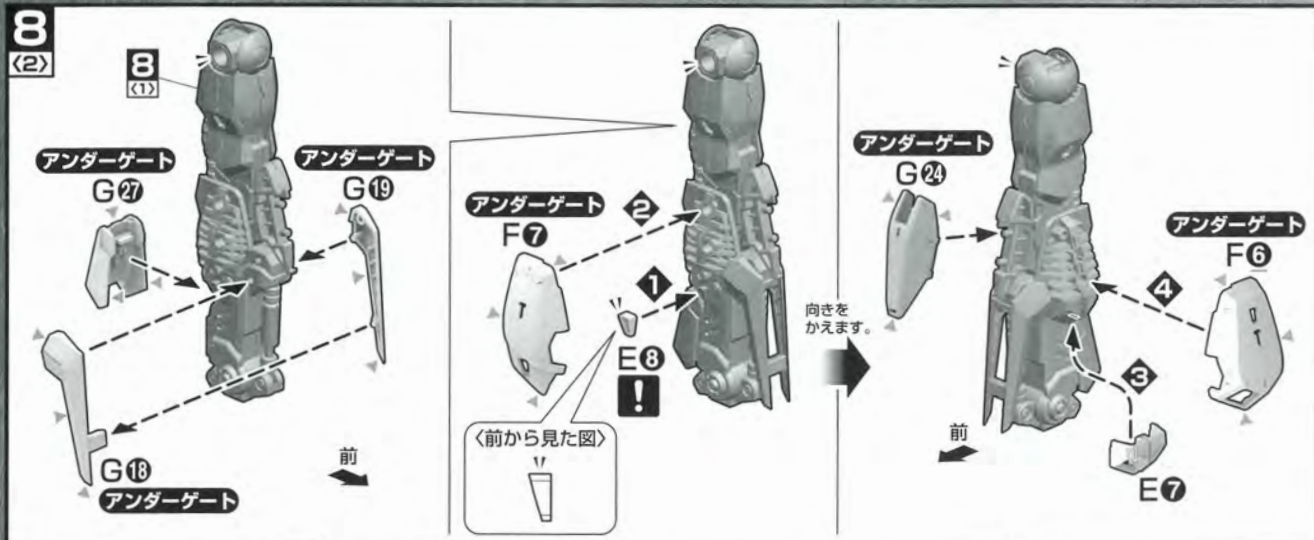


7 (右脚の組立)
RIGHT LEG



7 **8** (左脚の組立)
LEFT LEG





12
(6)

※ E6 は好きな所に飾ってください。

13 14 15 WEAPONS

・組立 13・14・15・16・17 で使用するパーツ

A (イロプラ)	B (グレー)	C (グレー) (x2)	E (レッド)
G (ゴールドメッキ) (x2)	H (ガンメタリック)	SB1 (クリアイエロー)	

・カラーシール

13 [ビーム・ライフルの組立]
(1) BEAM RIFLE

※シールは先に貼ります。

※後ろから見た図

※横から見た図

13
(2)

14 [クレイ・バズーカの組立]
(1) CLAY BAZOOKA

※切り取らないように注意してください。

14
(2)

※横から見た図

15 [ビーム・サーベルの組立]
(2) BEAM SABER

16
(1)

SB1

16
(2)

13で作ったビーム・ライフル

14で作ったクレイ・バズーカ

